

同 志 社 大 学

2015 年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2016 年 3 月 17 日提出

所 属	職 名	氏 名
心理学部	教授	興津真理子
研 究 題 目	家族造形法による事例検討の効果 —事例提出者にどのように役立つのか—	
研 究 成 果 の 概 要	<p>本研究では家族療法の一技法である「家族造形法」を，事例検討に用いることによる効果について検討をおこなった。</p> <p>実践としては，これまでに引き続き，今年度も研修会をキャンパスプラザにて継続して行い（1回／月，8回／年），その中で様々な事例について検討を行った。また，1月には実の親から保護や養育を得られない子どもたちのための活動を行っている「子どもの村福岡」の研修会にて，育親から提出された事例についての検討をおこない，里子として過程で生まれている子どもたちと里親との関係について理解を深めることができた。こうした領域においても家族造形法を利用できることがわかり，今後研究としても発展させていくことができると考えている。</p> <p>研究では，大学生を対象として，事例を「読む」場合と，家族造形を行う場合とで，事例の読み取りにどのような違いがあるのかについての検討，および，事例を読んだ場合に，事例の理解や当事者への共感が難しかった者に対して，家族造形法を体験させることによって，共感が促進されるかどうかについて，研究成果を2015年7月の家族心理学会にて報告した。</p>	